

# 社会資本総合整備計画事後評価 (概要)

名古屋港管理組合

平成28年3月

国土交通省の「社会資本整備総合交付金交付要綱」(平成22年3月26日付国官会第2317号)に基づき、名古屋港管理組合の社会資本総合整備計画について事後評価を行った。

### 社会資本総合整備計画評価会議

公正な評価に向け、幅広い見地から意見を得るため、学識経験者で構成する「社会資本総合整備計画評価会議」を開催し、事後評価を取りまとめた。

(1)開催日時

平成28年3月11日(金) 14時00分～15時30分

(2)開催場所

名古屋港管理組合 本庁舎8階 特別室

(3)出席者

- ・ 内藤 能房 委員長 (名古屋市立大学名誉教授)
- ・ 柄谷 友香 委員 (名城大学大学院都市情報学研究科教授)
- ・ 西脇 明典 委員 (弁護士)

【事務局】

名古屋港管理組合 企画調整室

## 1. 整備計画

名古屋港の整備計画	【港湾事業】	【海岸事業】
整備計画名	名古屋港の物流機能の維持・強化、快適な港湾空間の形成 (防災・安全)	名古屋港における総合的な高潮対策の推進(防災・安全)
計画概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岸壁・物揚場・船だまりの改良</li> <li>・緑地整備 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・海岸保全施設の改良 (防潮壁の液状化対策、嵩上げ、ポンプ場の改良)</li> </ul>
計画期間	平成22年度～平成26年度	
事後評価の時点	平成26年度末	

## 2.1 計画の期間、計画の目標、成果目標（定量的指標）

### 名古屋港の物流機能の維持・強化、快適な港湾空間の形成(防災・安全)

■計画の期間 平成22年度～平成26年度

■計画の目標

- ・既存ストックの改修・改良により、物流機能の維持・強化を図る。
- ・橋梁を耐震補強することにより、災害時の交通・物流機能を確保する。
- ・放置艇対策により、安全な港湾活動を確保する。
- ・人々が憩い、快適・安全に過ごすことの出来る港湾空間の形成を図る。

→成果目標 指標①、指標②  
 →成果目標 指標③  
 →成果目標 指標④  
 →成果目標 指標⑤、指標⑥

### ■成果目標と目標値に対する実績値

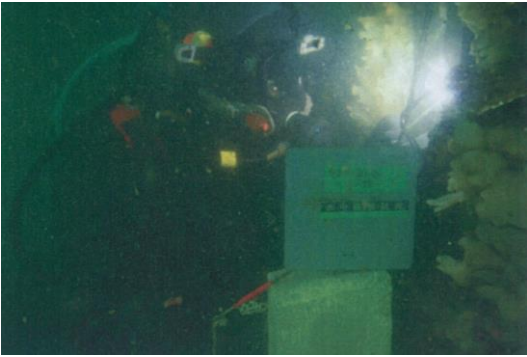
計画の成果目標（定量的指標）	定量的指標の現況値及び目標値に対する実績値	
	(H22当初) 当初現況値	(H26末) 最終目標値 (H26末) 最終実績値
定量的指標の定義及び算定式 ・ H22から5年間で予防保全が必要な港湾施設の改良率を、0%（H22）から100%（H26）とする。 【港湾施設】 H22から5年間で改良を必要とする施設数に対する改良施設数の割合を算出 $\text{改良率（\%）} = \frac{\text{改良が完了した施設数}}{\text{H22から5年間で予防保全を必要とする施設数}}$	0%	100% 57%
指標② ・ 維持管理計画の策定が完了した施設の割合を、0%（H22）から100%（H24）とする。 【長寿命化】 維持管理計画を策定する必要がある港湾施設のうち、策定が完了した施設の割合 $\text{維持管理計画整備率（\%）} = \frac{\text{維持管理計画書整備施設数}}{\text{維持管理計画書整備施設必要数}}$	0%	100% 100%
指標③ ・ 港内の第1次緊急輸送道路上の橋梁について、耐震化率を0%（H24）から25%（H26）とする。 【橋梁耐震化】 港内の耐震化を必要とする橋梁のうち、耐震化が完了した橋梁の割合を算出 $\text{橋梁耐震化率（\%）} = \frac{\text{耐震化が完了した橋梁数}}{\text{耐震化が必要な橋梁数}}$	—	25% 0%
指標④ ・ 港内の放置艇の恒久施設への収容率を14%（H22）から27%（H26）とする。 【放置艇対策】 港内放置艇のうち、恒久施設への収容割合を算出 $\text{放置艇収容率（\%）} = \frac{\text{恒久施設係留隻数}}{\text{プレジャーボート数}}$	14%	27% 25%
指標⑤ ・ 中川運河地区における堀止緑地の認知度を0%（H22）から70%（H26）とする。 【緑地】 中川運河地区における堀止緑地の認知度を把握 $\text{堀止緑地の認知度（\%）} = \frac{\text{アンケート内の堀止緑地認知数}}{\text{イベント時のアンケート集計数}}$	0%	70% —
指標⑥ ・ 金城ふ頭地区における金城ふ頭中央緑地の認知度を50%（H22）から70%（H26）とする。 【緑地】 金城ふ頭地区における金城ふ頭中央緑地の認知度を把握 $\text{金城ふ頭中央緑地の認知度（\%）} = \frac{\text{アンケート内の金城ふ頭中央緑地認知数}}{\text{イベント時のアンケート集計数}}$	50%	70% 55%

## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

### ○指標①『港湾施設の改良率』

#### ■事業の進捗状況

##### 岸壁・物揚場・船だまりの改良 【電気防食、防舷材等】



- ・鋼構造物(本体)の腐食進行を防止するため、アルミニウム合金陽極を取付けるなどの改良を行った。
- ・金城ふ頭、飛島ふ頭、弥富ふ頭、ガーデンふ頭、大江ふ頭、船見ふ頭、堀川、稲永ふ頭にて9事業を実施

##### 臨港道路の改良 【舗装打替え】



- ・経年利用による劣化(轍の発生)に対応するため、臨港道路の舗装面を打替える改良を行った。
- ・弥富ふ頭にて1事業を実施

##### 運河の改良 【張出補強】



- ・中川運河の護岸老朽化に対応するため、補強を行った。
- ・中川運河(昭和橋～長良橋)にて1事業を実施

## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

### ■事業効果の発現状況

厳しい財政状況の中、最大の事業効果が発現できるよう緊急性の高い施設を優先的に改良し、計画期間中の安全な施設利用を維持することができた。

また、改良した施設については、物流機能の維持・強化ができた。

### ■最終目標値の実現状況

H22から5年間で予防保全が必要な港湾施設の改良率

最終目標値	100 %	目標値と実績値に差が出た要因	厳しい財政状況の中、緊急性の高い施設を優先的に改良し、一定の効果はあったが、港湾施設の改良に必要なとなる予算の確保ができなかったため。
最終実績値	57 %		

改良率 (%) = 改良が完了した施設数 / H22から5年間で予防保全を必要とする施設数

最終実績値 (%) = 11施設 / 19施設 = 57%

### ■今後の方針

本計画で未実施となった施設については、物流機能の維持・強化を図るため次期整備計画に位置づけ、整備に必要な予算の確保に努め早期整備完了を目指す。

## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

### ○指標②『維持管理計画の策定が完了した施設の割合』

#### ■事業の進捗状況

平成24年度に維持管理計画書の策定を完了した。  
(係留施設38施設、臨港交通施設(橋梁)5施設の計43施設)

#### ■事業効果の発現状況

維持管理計画書に基づく計画的な補修により、施設の延命化が見込まれる。

#### ■最終目標値の実現状況

維持管理計画を策定する必要のある施設の割合

最終目標値	100 %	目標値と実績値に 差が出た要因	順調に計画の策定を完了することができた。
最終実績値	100 %		

維持管理計画整備率 (%) = 維持管理計画書整備施設数 / 維持管理計画書整備施設必要数

最終実績値 (%) = 43施設 / 43施設 = 100%

#### ■今後の方針

維持管理計画書に基づき、計画的に港湾施設の施設改良を推進していく。

## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

### ○指標③『第1次緊急輸送道路上の橋梁の耐震化率』

#### ■事業の進捗状況

第1次緊急輸送道路上の4橋梁のうち、金城橋の耐震化整備を計画していたが、平成27年12月に改訂した港湾計画において、ふ頭間の埋立計画を位置づけたことにより、橋梁の必要性を含めた耐震化の整備方針について再検討していく必要があることから、計画期間内での整備を見送った。

#### ■事業効果の発現状況

計画期間内での整備を見送ったことから、事業効果は発現していない。

#### ■最終目標値の実現状況

##### 第1次緊急輸送道路上の橋梁の耐震化率

最終目標値	25 %	目標値と実績値に 差が出た要因	計画期間内での耐震化を実施しなかったため。
最終実績値	0 %		

橋梁耐震化率 (%) = 耐震化が完了した橋梁数 / 耐震化が必要な橋梁数

最終目標値 (%) = 1橋梁 / 4橋梁 = 25%

最終実績値 (%) = 0橋梁 / 4橋梁 = 0%

#### ■今後の方針

災害時の交通・物流機能を確保するため、当面の安全対策を実施しながら、埋立計画を踏まえ、橋梁の耐震化の必要性について検討していく。



<平成27年12月 港湾計画図抜粋>



## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

### ○指標④『放置艇の恒久施設への収容率』

#### ■事業の進捗状況

・新舞子ボートパーク整備完了



駐車場



係留棧橋入口

・係留可能隻数 410隻(うち、今回整備隻数 200隻) <係留隻数 322隻(平成26年度末時点)>

## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

### ■事業効果の発現状況

新舞子ポートパークの整備により、主に施設周辺の名古屋港南部地区の放置艇を收容し、同地区において船舶の安全な航行、災害時の放置艇の流出防止対策を図ることができた。

### ■最終目標値の実現状況

港内の放置艇の恒久施設への收容率

最終目標値	27 %	目標値と実績値に 差が出た要因	新舞子ポートパークは満隻ではないが、放置艇所有者への適正管理の働きかけ等により、名古屋港内のプレジャーボート数が減少しているため概ね目標値を達成している。
最終実績値	25 %		

放置艇收容率 (%) = 恒久施設係留隻数 / プレジャーボート数

最終目標値 (%) = 410隻(計画係留隻数) / 1550隻(計画時点) = 27%

最終実績値 (%) = 322隻(事後評価時点) / 1250隻(事後評価時点) = 25%

### ■今後の方針

安全な港湾活動を確保するため、既存施設への收容率を高める取組みとともに、新たに港湾計画へ位置づけた係留施設の整備へ向けた取組みを推進していく。

## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

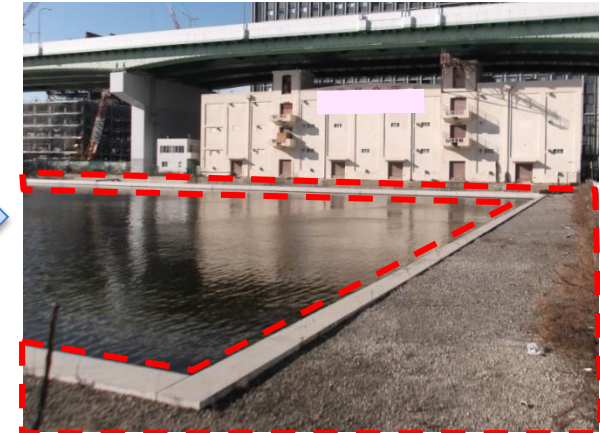
### ○指標⑤『堀止緑地の認知度』

#### ■事業の進捗状況

【 堀止西側 】



【 堀止東側 】



┌───┐ : 護岸整備箇所



<位置図>

堀止緑地は、名古屋市が国際歓迎・交流拠点として進めている「ささしまライブ24地区」の土地区画整理事業と連携し、当初平成25年度の完了を目指していたが、土地区画整理事業の完了時期が平成33年度に変更されたことから、堀止緑地を段階的に供用することとした。

護岸整備は平成26年度末に概ね完了している。

また、オープンスペースを有する西側の緑地は平成28年度の完成、東側の緑地は平成33年度の完成を目指し、堀止船だまりの水辺空間を活用した緑地整備を推進している。



-  : 西側の緑地は平成28年度完成予定
-  : 東側の緑地は平成33年度完成予定

## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

### ■事業効果の発現状況

「ささしまライブ24地区」の土地区画整理事業と連携し、快適・安全に過ごすことの出来る港湾空間の形成が着実に進んでいる。

### ■最終目標値の実現状況

中川運河地区における堀止緑地の認知度

最終目標値	70 %	目標値と実績値に 差が出た要因	未供用であることから認知度のアンケートを実施していないため。
最終実績値	—		

堀止緑地の認知度 (%) = アンケート内の堀止緑地認知数 / イベント時のアンケート集計数

最終目標値 (%) = ガーデンふ頭臨港緑園の認知度 = 70%

### ■今後の方針

快適・安全に過ごすことの出来る港湾空間の形成を推進するため、次期整備計画に位置づけ早期整備完了を目指す。

また、イベント時に案内チラシを配布するなど既に実施しているPR活動を引き続き行っていくとともに、堀止緑地の認知度を向上させるため、「ささしまライブ24地区」開発と連携して広報活動に努めていく。



※ 案内チラシ

## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

### ○指標⑥『金城ふ頭中央緑地の認知度』

#### ■事業の進捗状況

平成22年度から平成23年度において、既存緑地の一部をリニューアル整備し、平成24年度から供用を開始した。

(施設)

展望休憩所、園路、水辺の階段状ベンチ、植栽、ミスト発生器等



丘の上の展望休憩所からは、名港トリトンや巨大な船舶等、開放感ある港の景色を眺望できる



リニア・鉄道館入口付近に、緑地の案内看板を設置

## 2.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針

### ■事業効果の発現状況

金城ふ頭中央緑地の整備により、人々が憩い、快適に過ごすことの出来る港湾空間の形成を図ることができた。

### ■最終目標値の実現状況

金城ふ頭地区における金城ふ頭中央緑地の認知度

最終目標値	70 %	目標値と実績値に 差が出た要因	案内看板の設置や一層の広報活動に努め、認知度の向上には一定の効果が得られたものの、目標値には至らなかった。
最終実績値	55 %		

金城ふ頭中央緑地の認知度 (%) = アンケート内の金城ふ頭中央緑地認知数 / イベント時のアンケート集計数

最終目標値 (%) = ガーデンふ頭臨港緑園の認知度 = 70%

最終実績値 (%) = 400人 / 727人 = 55%

### ■今後の方針

金城ふ頭中央緑地の認知度をより向上させるため、レゴランドのオープン等周辺開発と連携して、広報活動に努めていく。

## 3.1 計画の期間、計画の目標、成果目標（定量的指標）

### 名古屋港における総合的な高潮対策の推進(防災・安全)

■計画の期間 平成22年度～平成26年度

■計画の目標 高潮(地震津波対策含む)からの防護による生命・財産の安全性の確保、被災の軽減を図る。

→成果目標 指標①、②

### ■成果目標と目標値に対する実績値

	計画の成果目標（定量的指標） 定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値に対する実績値	
		(H22当初) 当初現況値	(H26末) 最終目標値 (H26末) 最終実績値
指標①	<p>・海岸保全施設の改良により、防護機能の向上が図られる地区を0地区(H22)から2地区(H26)とする。</p> <p>【海岸保全施設】 H22から5年間で防護機能の向上を必要とする地区数に対する改良地区数の割合を算出 改良率(%) = 改良が完了した地区数/H22から5年間で改良を必要とする地区数</p>	0%	100%
指標②	<p>・海岸保全施設の改良(液状化対策)により、防護機能の向上が必要な延長3166mのうち、改良延長を0%(H22)から24%(H26)とする。</p> <p>【液状化対策】 海岸保全施設の改良(液状化対策)を必要とする延長のうち、改良が完了した延長の割合を算出 改良率(%) = 液状化対策が完了した延長/液状化対策が必要な延長</p>	0%	24%
			15%

### ■定量的指標を設定しない事業

- 津波・高潮危機管理対策緊急事業
  - ・防潮扉のアルミ化、壁体化を実施する。
- 海岸堤防等老朽化対策緊急事業
  - ・防潮壁のひび割れ補修、護岸の補修を実施する。

## 3.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針（指標①）

### ○指標① 『海岸保全施設の改良率』

#### ■事業の進捗状況

##### 防潮壁の嵩上げ(船見ふ頭、稲永ふ頭)

整備前



整備後



・昭和34年の伊勢湾台風の被害を受け高潮対策として整備された防潮壁が沈下により天端高さが不足しているため、嵩上げを実施

##### 堀川口防潮水門ポンプ所の改良

整備前



整備後



・昭和34年の伊勢湾台風の被害を受け高潮対策として整備された堀川口防潮水門ポンプ所は、施設の老朽化が著しいことから、新ポンプ所を整備するとともに旧ポンプ所の撤去を実施



## 3.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針（指標①）

### ■事業効果の発現状況

防潮壁の嵩上げについて、天端高が不足していた区間について、予定していた全区間の嵩上げが完了した。その結果、必要天端高を確保することができ、高潮に対する防護機能が向上した。

また、堀川口防潮水門ポンプ所について、高潮及び地震対策として施設の改良が完了したことにより、高潮時の排水機能の信頼性及び施設の耐震性が向上し、高潮に対する防護機能が強化された。

### ■最終目標値の実現状況

海岸保全施設の改良により、防護機能の向上が図られる地区数

最終目標値	100%	目標値と実績値に 差が出た要因	順調に施設整備を実施することが出来た。
最終実績値	100%		

改良率（％）＝ 改良が完了した地区数 / H22から5年間で改良を必要とする地区数

最終実績値（％）＝ 2地区 / 2地区 ＝ 100%

### ■今後の方針

高潮や地震津波からの防護による生命・財産の安全性の確保、被災の軽減を図るため、整備が完了した施設を適切に管理していく。

## 3.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針（指標②）

## ○指標② 『液状化対策の改良率』

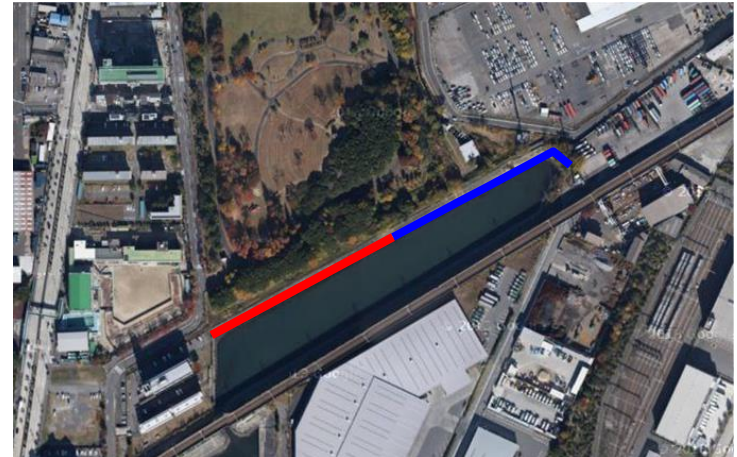
## ■事業の進捗状況

凡例 整備完了区間 未整備区間

## 大手ふ頭の液状化対策

改良必要延長:460m  
整備完了延長:284m

## 鴨浦地区の液状化対策

改良必要延長:370m  
整備完了延長:200m

・昭和34年の伊勢湾台風の被害を受け、高潮対策として整備された防潮壁について、地震津波対策として液状化対策を実施。

## 3.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況、最終目標値の実現状況、今後の方針（指標②）

### ■事業効果の発現状況

大手ふ頭及び鴨浦の防潮壁に対して、地震津波対策として一部区間の液状化対策を実施したことにより、構造物の耐震性が確保された。

### ■最終目標値の実現状況

海岸保全施設の改良(液状化対策)により、防護機能の向上が必要な延長のうち、改良が完了した延長の割合

最終目標値	24%	目標値と実績値に差が出た要因	愛知県地域防災計画の見直しを踏まえた設計とするため、事業着手時期を見直したことや、改良に必要な予算の確保ができなかったため。
最終実績値	15%		

改良率（％）＝ 液状化対策が完了した延長 / 液状化対策が必要な延長

最終目標値（％）＝ 750m / 3,166m ＝ 24%

最終実績値（％）＝ 484m / 3,166m ＝ 15%

### ■今後の方針

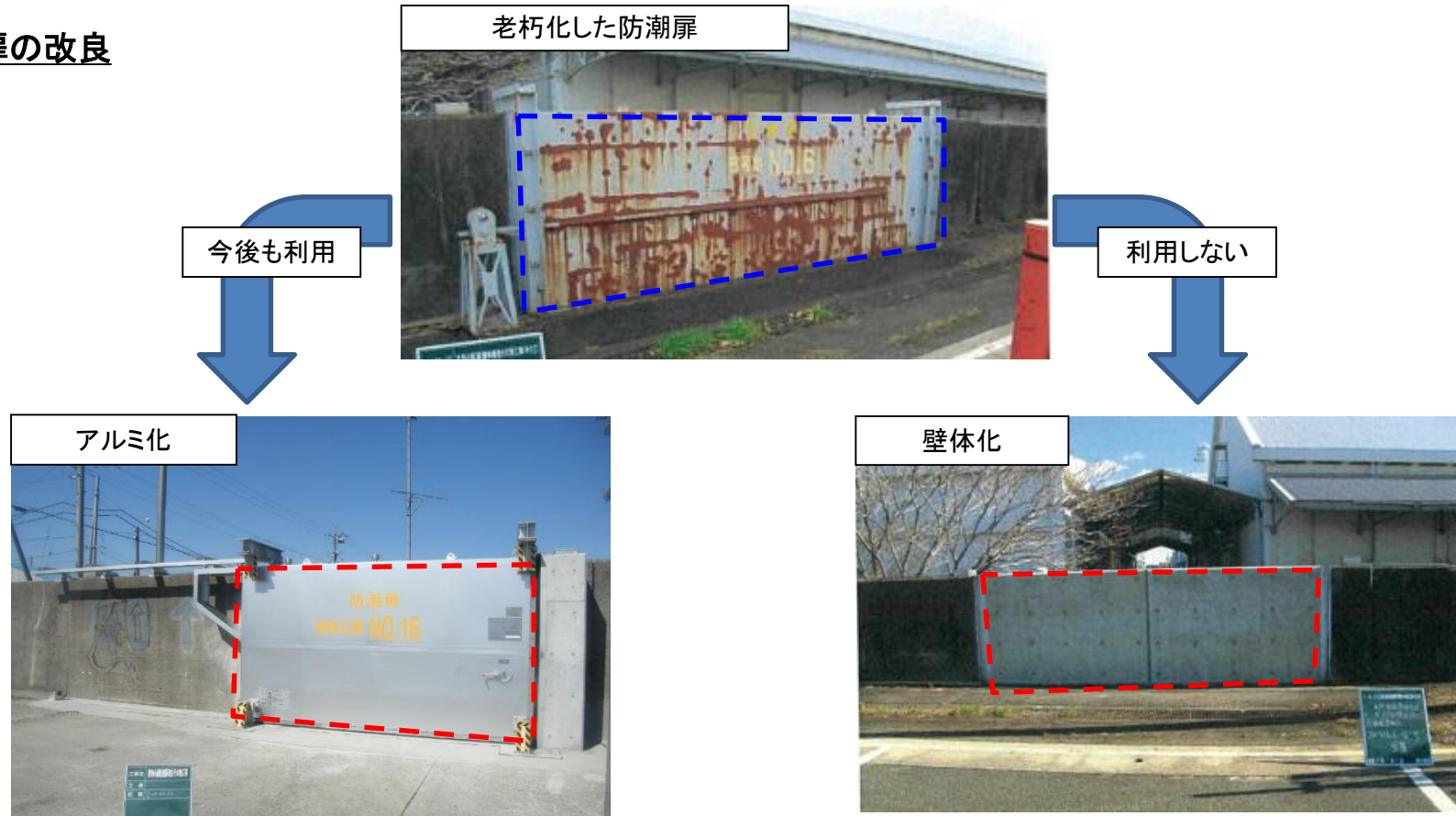
本計画で未実施となった施設については、引き続き高潮や地震津波からの防護による生命・財産の安全性の確保、被災の軽減を図るため次期整備計画に位置づけ、整備に必要な予算の確保に努め早期整備完了を目指す。

## 3.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況（定量的指標を設定しない事業）

### ○定量的指標を設定しない事業

#### ■事業の進捗状況(津波・高潮危機管理対策緊急事業)

#### 防潮扉の改良



・昭和34年の伊勢湾台風の被害を契機に整備した防潮扉が老朽化しているため、今後も扉として利用する箇所(左)はアルミ化による軽量化を実施し、利用しない箇所(右)は壁体化を実施。

## 3.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況（定量的指標を設定しない事業）

### ■事業の進捗状況(海岸堤防等老朽化対策緊急事業)

#### 老朽化調査

##### レーダ探査



##### スコープ調査



##### 目視調査



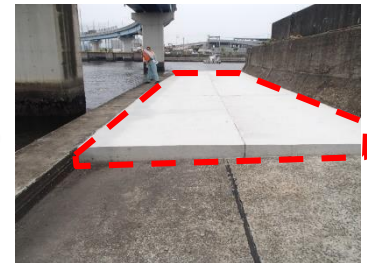
・海岸保全施設について、空洞化調査等の老朽化調査を実施。

#### 老朽化対策工事

##### クラック補修



##### 水叩き補修



##### 矢板補修



・海岸保全施設について、老朽化対策として護岸補修(水叩き補修やクラック補修、矢板補修)を実施。

## 3.2 事業の進捗状況、事業効果の発現状況（定量的指標を設定しない事業）

### ■事業効果の発現状況

#### ○津波・高潮危機管理対策緊急事業

・老朽化した陸閘の改修・壁体化を行うことにより、扉の開閉作業の操作性向上など、高潮に対する防護機能が向上した。

#### ○海岸堤防等老朽化対策緊急事業

・護岸の老朽化対策を行うことにより、施設が延命化され、防護機能の維持を図ることができた。

### ■今後の方針

高潮や地震津波からの防護による生命・財産の安全性の確保、被災の軽減を図るため、引き続き事業を実施し、防護機能の維持を図るとともに、施設の適切な管理を行っていく。